

岸波龍

礼拝堂

わたしたちにはこころが休まる場所が必要だ
そのおもいおもいをおだやかに寝かせる場所が

きびしい冬がやってくる

みなもはすでにこおりついた

かたい土の地面のしたには息吹がつまっている
掘り出すことができれば

息吹はひかりの束となって

柱となって

わたしたちを照らしつつみこんでくれるだろう

丘のうえにはちいさな礼拝堂が建っている

とおく手の届かない存在として屹立している

わたしたちのこころは息吹にのせられて

礼拝堂の天井に乱反射して

つぎつぎに乱反射して

突き抜けて

やがて

春がおとずれる